

一般社団法人

日本精神保健看護学会

Japan Academy of Psychiatric and Mental Health Nursing

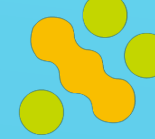
第2回 次期国民健康づくり運動プラン
(令和6年度開始) 策定専門委員会

令和4年10月17日

資料
2-4

次期国民健康づくりプラン策定専門委員会 第2回 提出資料

一般社団法人 日本精神保健看護学会



提案事項Ⅰ.

ひきこもりサポーター、こころの健康サポーターの増加

▶ 次期国民健康づくりにおいて、健康の増進に関する基本的な方向として

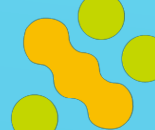
3) 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

4) 健康を支え、守るための社会環境の整備

が存在

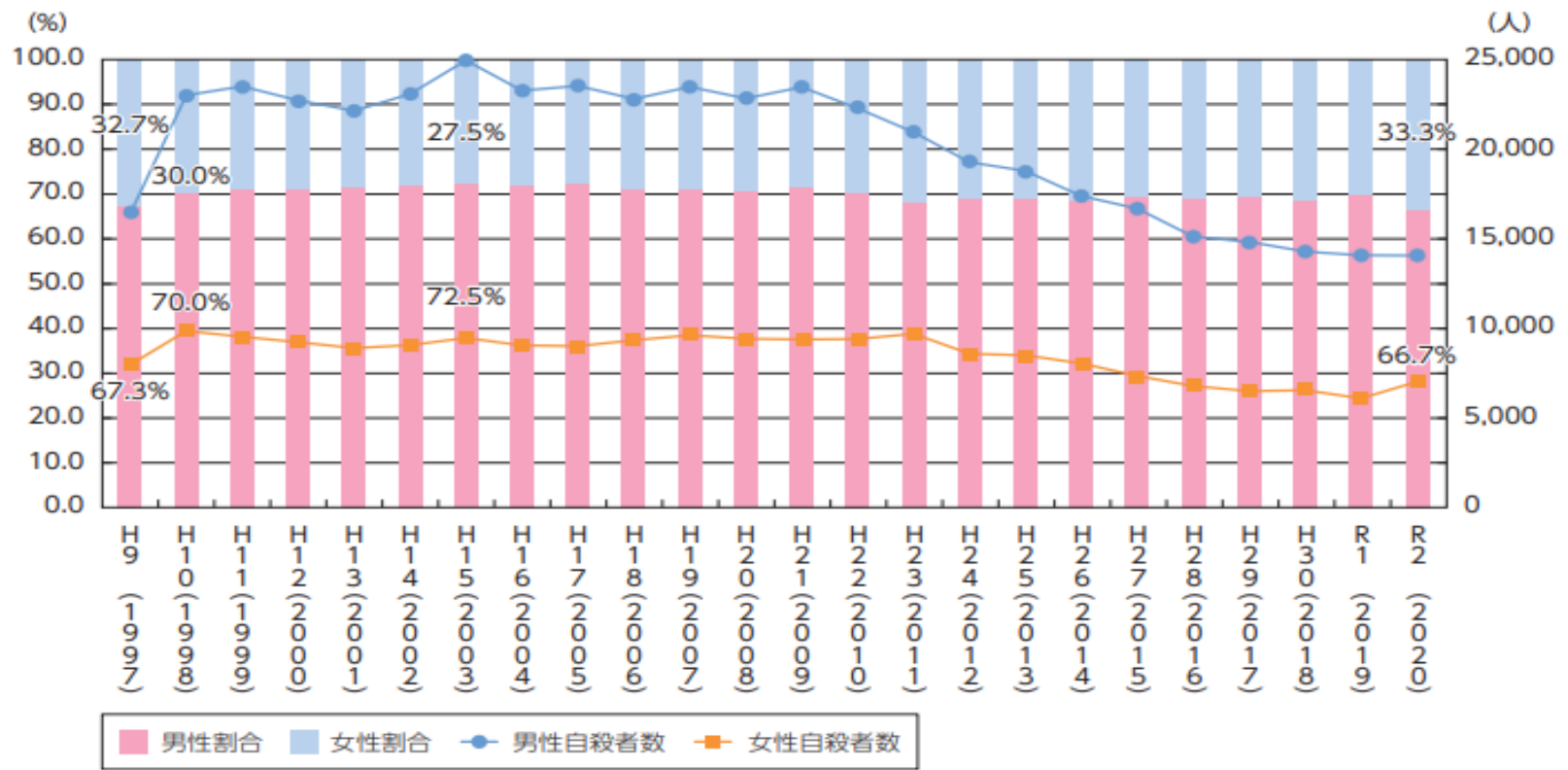


心の健康に関連するサポーター養成の指標を維持し、社会的孤立などに陥りがちな階層の人々の社会環境の改善を行う必要がある



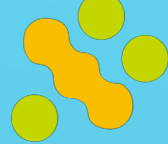
提案事項Ⅰ. ひきこもりサポーター、こころの健康サポーターの増加 背景（Ⅰ）

第1-18図 自殺者の男女別構成比の推移



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

- 男性の自殺率は一貫して低下傾向
- 女性の自殺率は2019年から再増加傾向に転じた



提案事項 1.

ひきこもりサポーター、こころの健康サポーターの増加背景 (2)

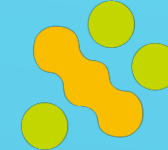
第2-3-38表 増加数が多い上位6職種 (過去5年平均との増減比較)

		令和2年自殺者数	過去5年平均	増減数	増減率
増加数が上位6職業	事務員	270	204	66	32.6%
	その他のサービス職	194	131	63	48.1%
	医療・保健従事者	174	141	33	23.2%
	販売店員	133	92	41	44.6%
	飲食店店員	71	55	16	28.2%
	その他の専門・技術職	71	42	29	70.7%

資料：警察庁「自殺統計」より自殺対策推進センター作成

医療・サービス
業従事者の自殺
が増加
サポーター養成
の重点を高齢者
から若者へ

労働者のメンタルヘルスの向上のためには遠隔支援など組織外からの支援ができるサポーター養成（ゲートキーパーも含む）が必要。また、都道府県のみならず専門機関による養成も必要と考える


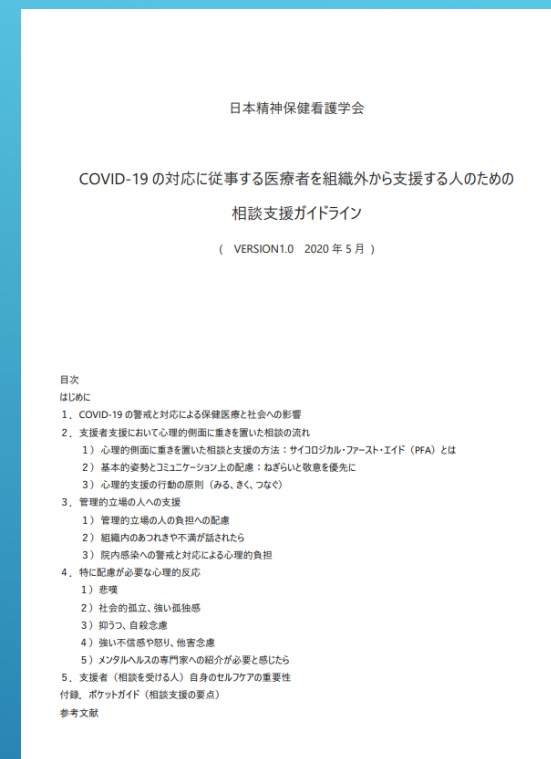


提案事項Ⅰ.

ひきこもりサポーター、こころの健康サポーターの増加 本学会の強み

- 厚生労働省による「心のサポーター養成事業」は、モデル事業が行われており、年間10回程度の実施
- 日本精神保健看護学会では、2020年に新型感染症の対応で負担が増加した医療福祉職を想定し、遠隔での精神的支援に関するガイドラインを作成した

<https://www.japmhn.jp/remotePFAguide>

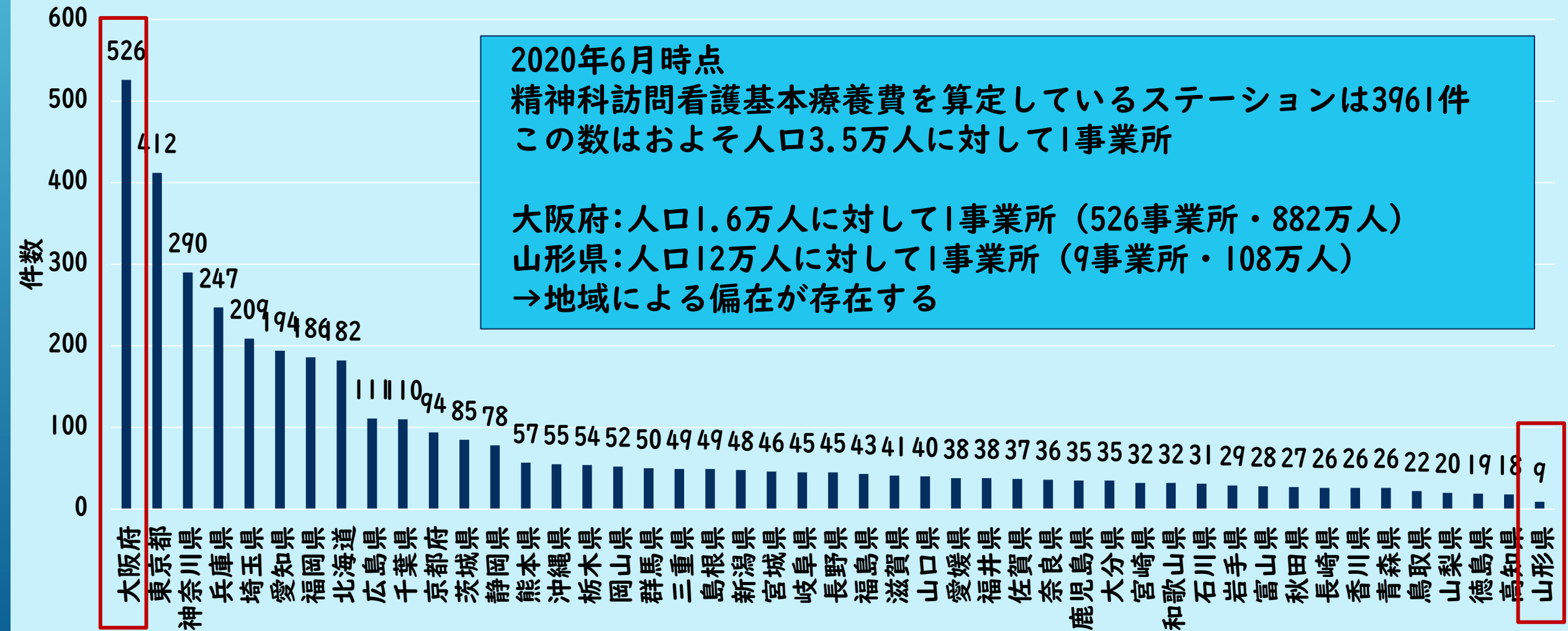


今後は、自治体だけでなく専門団体も実施すること、対面支援のみならず遠隔での支援も想定した養成が行われることが望ましい

提案事項 2.

こころの健康に寄与できる訪問看護ステーションの増加

(数値目標 全国5000か所、圏域人口3万人あたり1か所以上)



提案事項 2.


こころの健康に寄与できる訪問看護ステーションの増加
(数値目標 全国5000か所、圏域人口3万人あたり1か所以上)

- 健康の増進に関する基本的な方向である

4) 健康を支え、守るための社会環境の整備

社会参加の機会が乏しい階層のための社会環境の整備が重要

- 地域包括ケアにおいて「医療（精神疾患がある方への支援）」
と「アウトリーチ（行政機関と連携した支援）」の両面で役割
を果たしうる訪問看護ステーションは、有力な方略である



訪問看護ステーションの数の増加と地域格差（資源の偏在）を
是正するため、上記の数値目標を提案